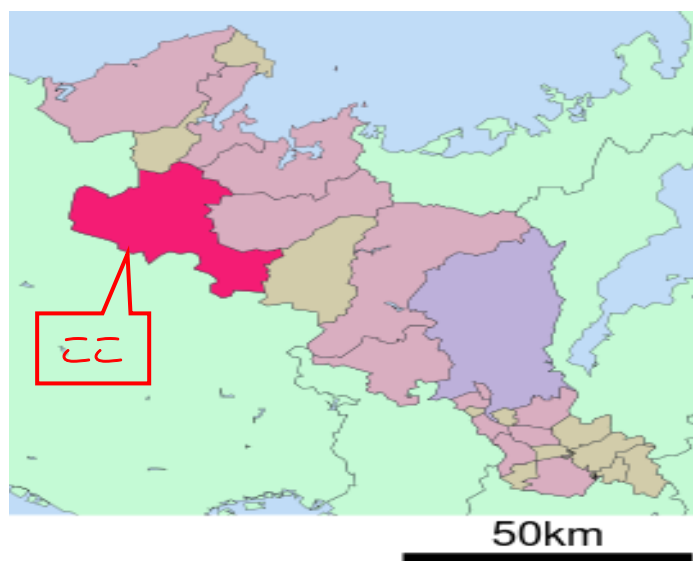


平成30年7月豪雨  
京都府福知山市  
災害ボランティア活動報告書  
7月14日(土) 15日(日) 実施



災害ボランティアバス運行責任者  
特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク  
〒437-1612 静岡県御前崎市池新田5408-1  
TEL/FAX 0537-86-2053  
E-mail omaezaki-dsnet@shore.ocn.ne.jp

《ご寄付をいただいた皆さま》

- \* エイケン工業様 \* 永野海弁護士様 \* 広和工業(有)様
- \* (福) 灯光園職員様 \* (司) つなぐ増田真也様 \* 松井杏奈様
- \* 田古正孝 (Ta5) 様 \* 平松悦子様 \* 齋藤佳子様
- \* 大村勝様 \* 長島孝様

皆様のご協力をありがとうございました。

## 《京都府福知山市災害ボランティア活動報告》

「平成30年7月豪雨：平成30年6月28日から7月8日頃にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨である」（ウィキペディアより）

福知山市は平成26年7月から8月に発生した台風11号、12号の豪雨による大規模な洪水被害をもたらしました。NPO法人御前崎災害支援ネットワークは平成26年8月にも福知山市へ災害ボランティアとして活動しました。今回2度目の福知山市の活動となりました。

★活動場所：京都府福知山市内7月14日（土）～15日（日）

\*14日（土）最高気温38.5℃

- ・AM4：00 御前崎市役所出発 観光バス1台、ハイエースバン1台  
参加者22名（男性12名 女性10名）
- ・AM10：15 福知山市ボランティアセンター到着
- ・到着後～PM3：00 5人一組の4グループ分けて各作業を分担  
福知山市民生委員同行＝ニーズ拾いのため被災者訪問  
ボランティア活動者へ飲料水配達、健康状態の確認  
土砂かき出し作業
- ・PM3：00～ 各活動報告と感想、ミーティング
- ・PM4：40 宿泊場所へ

\*15日（日）最高気温38.7℃（全国最高気温）

- ・AM8：00 宿泊場所出発
- ・AM8：30～PM2：45 各班活動場所へ  
1班 大呂地区 1階浸水宅 土嚢詰め、ガレキ出し、食器洗い  
4班 大呂地区 裏山の土砂崩れ宅 1階と庭の土砂出し  
2, 3班 猪崎地区 浸水宅 家具出し、畳出し、床剥がし
- ・PM3：30 福知山市出発（各所渋滞）
- ・PM11：30 御前崎市役所到着

《由良川の浸水高表示》

由良川は堤防のかさ上げに伴い支流が本流より低くなってしまい何度も洪水が起きます。11か所に洪水高表示が建てられている。高いところでは5Mもの高さになり2階のほとんどが浸水する場所もある。道から3M以上もかさ上げして住宅を建てているが、高齢者の一人暮らしなど貧困層は家を建て直せないでいる様子だった。商店街は浸水に慣れているようで既に平常に営業をしていた。



## 《福知山市災害ボランティアセンター》



- 到着は午前10時15分。センターでは事前登録を済ませておいたので暑いからと担当者がバスの中で手続きを済ませてくれました。
- 初日はニーズ拾い。民生委員さんと2人1組で被災した地域へ聞き取り活動でした。
- 聞き取りをしながらボランティアのボランティアです。クーラーボックスに飲料水と塩飴を持ち作業中のボランティアに熱中症にならないよう休憩を促しました。



- 初めて参加の高校生は緊張気味に「何か困りごとはないですか？」と被災者のお宅にタオルと被災者支援チェックリストを渡しながら訪問しました。



- 1日目の活動終了後にはみんなでセンターのフロアでミーティング。感想や反省点など意見交換しました。

「暑かった！ 暑かった！！ 暑かった！！！」みんなよく頑張りました！！



《被災者のお宅へいざ！》



- 水害の時の作業服は長袖・長ズボン・ゴム手袋・帽子（ヘルメット）・ゴーグル・マスク・長靴（鉄板入り）、ウエストポーチ（貴重品）、タオルこれが正式な水害対応の作業服。
- 体も顔も蒸れて暑い！暑い！！ この日は全国1番の38.7℃になっていました！
- 浸水したお宅の家具出しや裏山が崩れた土砂の取り除きなど様々なニーズがありました。
- 災害ボランティアのルールで被災者やお宅などの写真を撮らないことになっています。ちょっとだけ撮らせていただきました。



- 作業を3時前に終了し、3時30分福知山市を出発。福知山市社会福祉協議会の局長さんが、バスに乗り込みお礼の言葉をいただきました。
- 「ありがとうガール」の皆さんにお見送りをさせていただきました。
- 皆さんから「御前崎に何かあったら駆けつけるからね〜！」何よりも嬉しい言葉！



「茶の国会議」の玉木優吾さんに前日から私たちの活動の調整をしていただいていたので助かりました。ニーズ拾いの活動は福地山市では始めて実施したそうです。

### 《反省点》

- ・20分活動、10分休憩を繰り返し、水分・塩分補給も十分していたつもりでしたが、1人熱中症の症状が出てしまい、救護室にお世話になりました。幸い軽い症状で体を冷やし休憩したら元気になってくれたので良かったです。  
2つの班が活動していたので班長が2人いました。しかし、「被災者のニーズ作業を終わらせてあげたい」という強い気持ちが班員の健康状態の管理がおろそかになってしまったことも大きな反省点でした。
- ・初日の到着予定時間が9時位の予定でしたので、玉木さんがボランティアセンターの運営とニーズ拾いの活動をセンターと調整し準備してくれました。しかし、到着時間が遅れてしまいセンター運営ができませんでした。事前に決めていた班の構成も運営用の班と力仕事の班に組み替えていたのですが、役に立てることができず班長を惑わせてしまったことも反省点でした。

### 《参加者からのアンケート》

- \*年齢 10代=6人 30代=2人 40代=4人 50代=3人 60代=7人
- \*性別 男=12人 女=10人
- \*参加回数 初回=14人 2回目=1人 3回以上=7人

### 《被災者へどんな支援をしたら良いと思いますか？》

- ・ボランティアで伺った時に心温まる言葉かけ
- ・今日、落合さんや他の方が言っていた通り声を上げられない方が多いと感じた。声を聴こうと思う
- ・心に寄り添う迅速な支援
- ・暑いのでお水などを渡す
- ・話を聞いてあげること。聞くことで相手の不安も少しは無くなって私たちの勉強にもなるから
- ・ボランティアへ積極的に行ったり、できなくてもお金の支援をする
- ・精神的な部分もありますが、一人だとなかなか進まないの、状況などをしっかり把握した上で上手く振り分けて効率よく作業できたら良いと思う
- ・具体的な支援、傾聴、寄り添い
- ・ニーズの拾い出し
- ・特に被災された方の支援、少し趣旨が違った活動もあったと思いました
- ・募金と同時に人工（にんく）の派遣
- ・高齢者宅、特に単身者に寄り添って支援すること
- ・被災になれた人々であるが自治会／民生委員を使ったニーズの把握がとても大切だと思った（受援力UP）
- ・些細なことでも遠慮のない真に困っている事に対する支援
- ・ニーズになるべく応える
- ・片づけ

- ・素早く広く応えること
- ・ニーズに応えた温かい支援
- ・声なき声を拾い、寄り添いながら支援をする

#### 《全体の感想》

- ・多くの人のやさしさの上に成り立っているボランティアを育成したい。
- ・初めての参加です活動にも様々な役割があることが分かりました。指示待ちの時間が長いともったいないと感じました。一人暮らしの高齢者が被災していることが多く感じた→ボランティア活動に来てもらっているのに休んでいるわけにはいかないといっていた。私たちが行って活動してもできることはとても小さいと思った。依頼者のおばあちゃんが休憩時に真っ赤な顔でかき氷を配っていたのが印象的だった。
- ・今までの活動の中で一番暑かったと思う。熱中症対策はしっかりすることが必要今日は適切な休憩が取れた。
- ・ボランティアセンター⇄ボランティアとの情報の共有の不足 今回のような○班&△班との応援の可否等確実な情報のやりとり不足により支援が受けられると思っていたのにしてもらえない方のとても残念そうなお顔があり申し訳なく思いました。
- ・とても良い経験ができた。1日目昼食時間等班長として上手く組織をまとめられず皆さんに申し訳なかった。更に2日目体調不良者を出してすみませんでした。
- ・ニーズ掘り起しのための訪問活動の大切さを実感。班分けは全行程を通して固定した方がよい 若い子たちがボランティアに参加していただけることでまだまだ捨てたもんじゃないなと思う。
- ・TVで見ていたものでは比にならない大変さだった。一度現場へ行かないと被災者側の立場は理解できないと思う。長時間をかけてニーズに対応しなければならなかったと感じた。
- ・今日の活動地点は人的被害がないということで少し気が楽な点があったが、マスク、ゴーグル、長靴、長袖の装備の作業はとても息苦しく、暑さもあり大変であった(38.5℃) ボラセンの受入体制はなれている感じで自分たちがもし受け入れる立場の参考にとてなった。
- ・要望があった作業に対する危険の有無の確認、判断。
- ・現実、疲れきった現地の方へどう声をかければよいのか分からなかった。私たちも熱中症にならないように休み休みしかできないもどかしさがあった。
- ・今回、急でしたし、初めての参加で戸惑いも多くありましたが、皆さんが優しく接して下さりとても心強かったです。確実に得る物はあったしとても良い経験ができました。また、機会があれば参加したいです。
- ・初めてのボランティア活動で見よう見まねでやってみたら以外に良く分からず困ったりするところもたくさんあったけども、慣れてくれば自分からやろうとして色々聞いて出来たので参加してよかったです。

- ・暑かったです全体的に！ 日曜日初めは（午前）休憩が欲しかったが、午後になってから休憩は少なくても平気になった。また、機会があれば参加したいです。
- ・初めての災害ボランティアに参加して本当に大変でした。でも、被災された人たちがもっと大変な思いをし、悲しい思いをしていることがわかりました。話を聞いているうちに相手の方の表情が少しやわらいだので辛い思いをしたことがわかり、話すことで不安などが少し無くなった。この経験を忘れず活かしていきたいと思いました。
- ・初めての体験ばかりであまりうまくいかないことがたくさんありましたが、貴重な体験ができました。また参加したいです。ありがとうございました！
- ・初めて参加したが、とても勉強になった。色々な人と話すことができたのも良い経験になった。
- ・2日目に被災されたお宅にうかがったが、お家に方が「うちはもうそんなにすることはないよ」と最初はおっしゃっていた。しかし、やり出すといくらでもあり結局お家の仲間で片づけることはできなかった。遠慮される方が本当に多いのだろうと感じた。こういった声を拾うというだけでも実際に現地へ行くことの大切さを感じた。色々ありがとうございました。
- ・15日（日）の作業はこのようなこともあるんだなと思いました。
- ・2日目の活動が一連の流れとして体験できました。20分毎の休みが取りにくいことを感じました。つくぎりのいいところまでやりたがってしまった。一人体調がわるくなりましたが、若い子はなかなか自分のことを伝えないので回りが気が付いてあげられれば良かったと思いました（昼食を食べていないなど、その時に）訪問した皆様が本当に腰が低くて何度もお礼を言って下さったのが印象的でした。今回は準備方いろいろお世話になりました。ありがとうございました。
- ・小学生の子がいて、子育ての真っ最中なのでなかなか参加しづらい年代だと思うんですが「うまく条件とタイミングがあればボランティアの壁は決してたかくないよ」とママ友世代に伝えたいです。

\*~\*

この度は、福知山市災害ボランティア活動に多くの寄付金を賜り、誠にありがとうございました。お蔭をもちまして無事2日間の活動を終えることができました。

また、半数以上が初めて災害ボランティアを経験したことで、被災者のご苦勞や心の内面を知る機会ができました。加えて自分たちの活動からいかに迅速な活動が重要か、被災者に寄り添う気持ちの重要性などを実感してくれたことと思います。

まだまだ、西日本豪雨の被災地は復旧がままならない場所も多くあります。私たちは引き続き災害ボランティアとして救援活動をしていきます。

8月最終土日に関東圏で活動を予定しています。引き続き皆様のご協力をお願い致します。

代表理事 落合美恵子